

福岡高退教第43回定期総会を開催 憲法改悪・集団的自衛権行使容認を許さず 平和な社会を築くために行動しよう！



「特定秘密保護法」の廃案を求めるとともに 「集団的自衛権行使容認」の閣議決定による 「戦争のできる国づくり」を許さない決議

特別決議（全文）

昨年12月、「特定秘密保護法」が強行採決されて成立した。情報は、民主主義社会において国民の財産であり、政治家のためだけのものではない。それ故、国民のためにはきちんきちんと管理されるべきで、基本的に秘密法ではなく情報管理法であるべきだ。そして、国民の知る権利を保障するため、情報は最終的には国民にすべてを公開されなければならない。

退職者連合は「特定秘密保護法」の廃止を求めて団体署名にとりくみ、今年12月に「特定秘密保護法」は施行される。引き続き廃案を求めてとりくみ続けなければならない。

安倍首相は、6月23日「沖繩慰霊の日追悼式典」に参加して、「不戦」を誓う発言をした。ところが、その日から一週間後の7月1日には、「72年政府見解からの論理的帰結で集団的自衛権の行使ができる」と閣議決定を行った。一方では「不戦」を誓い、もう一方では「戦争のできる国」への道筋を作るといふ矛盾を平気で行うことに国民の不信感がつのっている。

戦争放棄を謳う「憲法」を変えることなく、「集団的自衛権行使」の容認を決定するというのは、国民の意思を全く問うことなく改憲することであり、立憲主義を否定する愚挙、歴史的大罪だ。国民としてこれを見過ごすことはできない。

300万人を超える戦死者を出した第二次世界大戦の反省から、自民党政府も含めて歴代政府は「憲法」に謳う平和主義を守り続けて来た。それを捨て去ってしまっただけでいいはずがない。また、安倍首相が靖国神社参拝を強行することは、先の戦争で多くの犠牲を強いられた隣国の人々の心情を逆なでし、その深い悲しみと強い怒りに変えてしまうことにはかならない。ともに建設的な未来の互恵関係を築いていこうとしようとする寛容の心を踏みにじる行為だ。

安倍首相は、世界情勢に思いも至らず、「最高の責任者は私だ。私たちは選挙で国民の審判を受ける。」などと傍若無人な発言まで行っている。これは、「憲法第99条」に規定されている憲法擁護の義務を放棄することであり、決して許してはならない。

私たちは「戦争への道を許さない福岡県民委員会」に結集し、国民的議論を経ることなく閣議決定された「集団的自衛権行使容認」の撤回を求め、「戦争のできる国づくり」を許さないため、全力を挙げてとりくむことを決議する。

2014年7月24日
福岡高退教職員会の会 第43回定期総会

〔 ※なお、「特別決議は、採択するだけでは意味がない。」との意見を受けて、後日、安倍首相、自民党、公明党、それぞれに抗議・要請文として送付しました。 〕



第33号
2014. 9. 4

発行所
福岡高退教職員会の会
福岡市東区唐土1-9-13
(高退教組会館)
電話 092-631-4631
発行責任者
納戸満哉

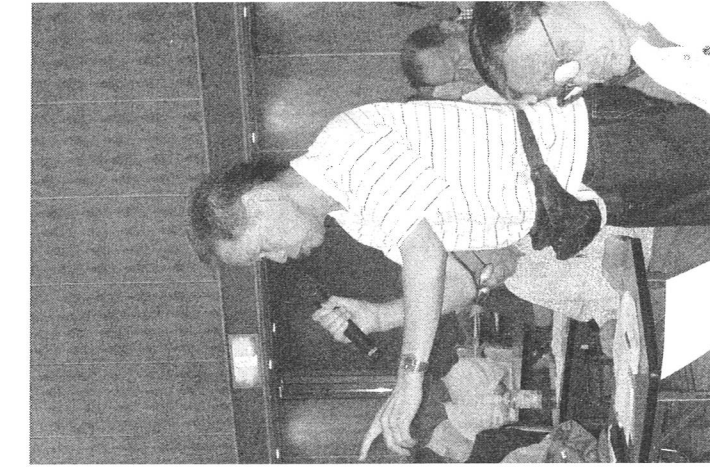
7月24日、福岡リーセントホテルで第43回定期総会を開催しました。7月1日に「集団的自衛権の行使容認」が閣議決定され、安倍政権の暴走に憤りを抑えることのできない状況の中で開催となりました。

納戸会長はあいさつの中で、「特定秘密保護法で国民から情報を奪い、『集団的自衛権の行使容認』で海外派兵をしようとするなど、安倍政権は無謀なことを立て続けに行っている。戦争を許さない署名活動にとりくんでいるが、子ども連れの母親や高校生など若い人々が関心を持って応じて

てくれることに希望を感じている。日退教総会で西澤日退教会長も『まちへ出よう！』と呼びかけたが、広く市民に訴え続けることが必要だ。ともにたたかい続けよう。』と力強く述べました。来賓として、渡邊福岡高退教組委員長、檀福退運事務局長、中村福退教会長、

浦田教職員共済所長からそれぞれに、戦争への道を許さず、平和を守るためにたたかうという決意と

ともに連帯と激励のあいさつを受けました。議案説明のあと、質疑討論を行い、「原発をつくったのは人類のおごりである。廃棄物処理もできていない。原発は絶対になくすべきだ。」「自己中心的な考え方が蔓延して殺伐とした事件が続いている。また、日本の中学生は世界で一番孤独を感じているというアンケートの結果もある。幸せとは何かの原点に立ち返ることが必要だ。」「教育現場の状況が分からないのが

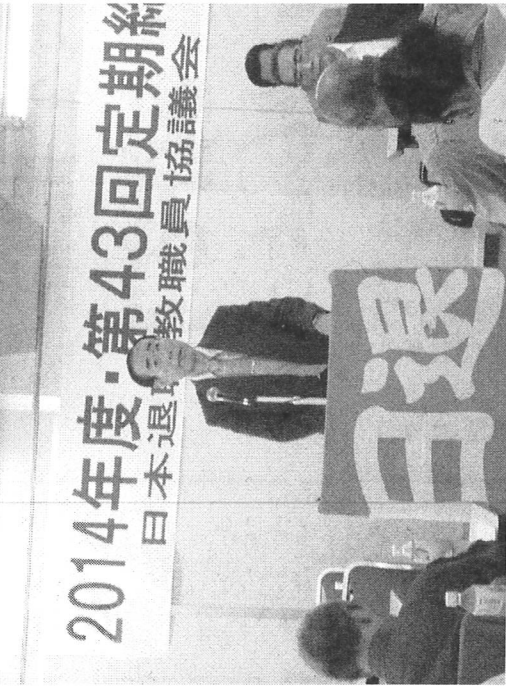


残念だ。福岡高退教組をとりまく情勢をもっと知らせてほしい。」「里山資本主義やユーロサトリなど用語の説

明もしてほしい。」等々の意見や要望が出され、議案は賛成多数で可決しました。また、役員については、

納戸会長、繩崎副会長、永末副会長、志岐事務局長の現体制が引き続き選出されました。最後に、特別決議「『特定秘密保護法』の廃案を求めるとともに『集団的自衛権行使容認』の閣議決定による『戦争のできる国づくり』を許さない決議」と総会宣言を採択して会を終了しました。

その後、会場を移動して懇親会を行い、各支部から、歌謡曲や相撲、甚句など出し物が披露され、親睦を深めました。



日退教第43回定期総会を開催

2014年6月10日
日本教育会館

集団的自衛権などを認めず、平和な社会を！

総会は反動的な安倍政権への憤りと不安を抱きながら全国から駆けつけた約100人の代議員の参加で開催されました。西澤清会長のあいさつに始まり、阿部保吉日本高退連会長を含む8人の来賓のあいさつを受けました。そして、経過・決算報告、第1号議案から第3号議案まですべて原案通りに可決されました。

西澤会長はあいさつの中で、「私たちは年金、医療、介護などの充実のためにたたかってきた。高齢化は私たちの運動の成果だ。少子化は、規制緩和や非正規労働、賃金引き下げ、年金、医療の改悪など将来に希望が持てないという新自由主義政策の失敗から生まれたものだ。安倍首相の積極的平和主義は戦争への道だが、本当の積極的平和主義は差別や貧困をなくすことだ。そういう方向に自信を持って進みたい。外に出

よう。まちへ出よう。社会に参加しよう。」と訴えました。来賓として、阿部保吉日本高齢者・退職者団体連合会長、小西清一日本教職員組合中央副執行委員長、伊藤宏美教職員共済生活協同組合専務理事、北村典子全国退職女性教職員の会事務局長、木下哲郎日本教職員相互共済会理事長、森越康雄全国退職教職員生きがい支援協会理事長が連帯と激励のあいさつを述べ、民主教育政治連盟の那谷屋

正義参議院議員と神本美恵子参議院議員もあいさつに駆けつけました。討論の中では、香川県から「教科書採択について学習し運動を組織してたたかった。」大阪から「組合費の給料からのチェックアウト拒否」が計画し、楽しい旅行が行われています。

拒否、分会会議の校内施設使用拒否などの弾圧とたたかっている。「岩手県から「戦争をさせない1000人委員会」の署名や教育委員会制度改悪の勉強会等で頑張っている。」石川高から「交流、親睦を基本としてきたが、日退教が『表へ出よう』と提起しているので頑張りたい。」千葉県から「被災地の

就学支援に参加し、現地でなければ分からない多くのことを学んだ。」沖縄県から「最後の砦として名護市長選をたたかった。11月16日投票の県知事選も頑張りたい。」福岡県から「神本選挙のお礼。福岡県退職教職員協会の支援事業のとりくみを全国的なものに。」等々の意見が述べられました。

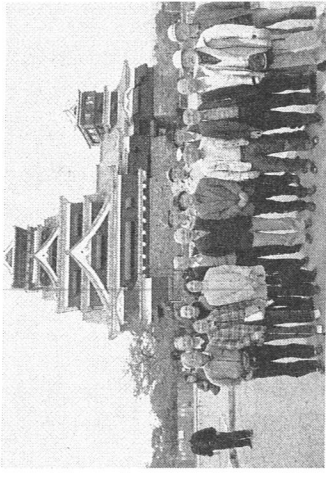
支部活動報告

行事で楽しむ生き生き

北九西支部 田中信輝

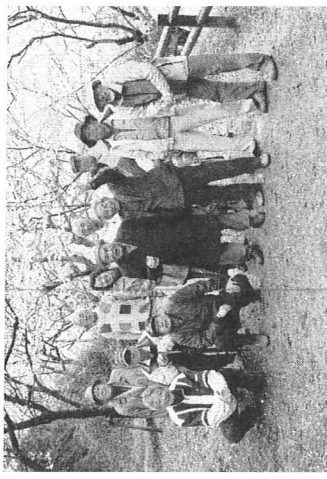
北九西支部は、次のさまざまな活動に生き生きと取り組んでいます。

①バス旅行
毎年11月にバス1泊旅行を実施しています。旅行担当者が計画し、楽しい旅行が行われています。



■バス旅行(熊本城にて)

今年は、鹿児島県出水方面に鶴を見に行く予定です。



■花見(垣生公園にて)

②花見
毎年、中間の垣生公園で花見を行っています。今年も4月3日に20人以上の参加者を得て盛大に行いました。元遠賀高校食品加工科の西村氏お

③新年会
この行事も毎年行っています。今年も1月17日に山賊鍋黒崎店で開催し、23人の参加者を得て楽しく語り合いました。

④総会+懇親会
8月下旬に開催することが恒例となっています。

⑤機関紙発行
機関紙「ささくら」を定期的に発行しています。原稿を充実させるため、エッセイ、詰将棋等も掲載しています。

⑥その他のとりくみ
高教組・社民党などと連帯したとりくみをすすめています。そして、原水禁、護憲意見広告、雇用問題を考える会、街宣、署名などの運動に積極的に参加しています。

私の戦争体験

叔父の戦死の実情

福岡東支部 宮本保行

私の父は5人兄弟で、一番下の弟を除いて4人が第2次世界大戦にかり出されました。私の父は初めに上海事変、その後に支那事変へと出征し、37歳で3度目の召集に応じ、昭和20年3月、硫黄島で戦死しました。また、昭和17年に三男の叔父もガダルカナル島で戦死しました。この叔父については、「ガダルカナル島の渡河作戦中に左胸に弾丸の破片が突き刺さり戦死した。」と戦死通牒に記されて

手製の濁酒を堪能しながら、各自が近況報告を行い、楽しいひとときを過ごすことができました。

は解散する。この後は各自が自分の力で生き延びるように。」と命令を出し、食糧を配給した。そのときに配給された米は、掌のくぼみをやつと埋まるくらいの量であった。」と語られました。その方は、ジャングルを戦友数人と深い歩き、疲れて木に背をもたれて休んでいたところに自動小銃を持った米兵が現れたとのことで、これで自分は終わりかなと思つて自分は座つたままに動かずにいたのだそうです。ところが、他の戦友たちは銃を手に立ち上がった瞬間、米兵に連射され亡くなったのだそうです。その方は抵抗する意志がないと見なされて捕虜となり、ハワイに連れて行かれ、終戦後無事に帰国されました。その方は、「国が国民に流す情報は国民を欺くものが多い。あなたの叔父さんの死は間違いなく餓死だ。」と断言されました。